

ふくしまインフラ長寿命化研究会
設立趣意書

日本大学工学部
教授 岩城一郎

近年、東日本大震災の発生、高速道路トンネルの崩落事故といった背景より、高度経済成長期に集中整備された橋やトンネルといったインフラの維持管理に関する国民の関心が急速に高まっています。この問題に対し、国、県、政令指定都市、高速道路会社、鉄道会社などでは、これまでの維持管理方法を見直し、今後必要な予算を投資し、人員を増強するなどして、適切な点検、診断、対策を講じることが可能となりますが、それ以外の自治体では、財政力、技術力が不足し、十分な予算と人をかけてインフラの維持管理を行うことが困難な状況にあります。

福島県は、浜通り、中通り、会津という地象・気象条件の全く異なる 3 地方からなり、コンクリート構造物を例に挙げると、それぞれ太平洋沿岸における塩害、凍結防止剤散布による劣化、凍害といった厳しい環境作用にさらされます。また、県内市町村の中には少子高齢化、過疎化が進み、インフラやそこに暮らす人々の生活のあり方そのものが問われています。

以上の背景より、福島県内の主として市町村で管理するインフラを対象に、将来にわたり、安全に、そして安心して使えるよう、合理的で、実効性のある方策を提言し、実践するための組織として「ふくしまインフラ長寿命化研究会」を設立することといたしました。

本研究会は、年 3 回の定例会と年 1 回のシンポジウムの開催を基本とし、ここでの活発な議論の下、種々の提言を行い、インフラ長寿命化のための活動を実践します。研究会内にはコンクリート構造、鋼・複合構造、施工等に関する国内の第一人者をアドバイザーとして招へいし、助言をいただくとともに、定例会やシンポジウムでは毎回、第一線で活躍する研究者・技術者による話題提供をいただくことにより、インフラの維持管理に関する見識を深める機会とします。また、現場における実践的技術力を養うため、各地で講習会や現場研修会を開催し、橋やトンネルの点検、診断、補修・補強技術を修得します。さらに、官学連携コンソーシアムである福島県土木建築技術懇談会や学協会・団体との連携により、インフラ長寿命化に関する県内全域のネットワークを強化します。

加えて、本研究会では、インフラの長寿命化にあたっては、市民との協働が不可欠との認識の下、まずは市民にインフラに対する関心と愛着を持ってもらうことが重要と考え、市民との協働による道づくり事業、橋の名付け親プロジェクト、橋の歯磨きプロジェクトなどを進めます。

以上の活動を通し、インフラに携わる県内技術者の技術力の向上を図るとともに、産学官民の協働により、インフラの長寿命化を果たし、地域の活性化とふくしまの復興の一助となることを目指します。

